# SupabaseのDatabase Webhook(Alpha)を試してみた

#### 自己紹介

- 永岡史哉
- 株式会社GoQSystem システム開発事業部 フロントエンドエンジニア マネージャー
- ・広島から出張中
- Next.js / Python
- ・5がつく日はゴーゴーカレー



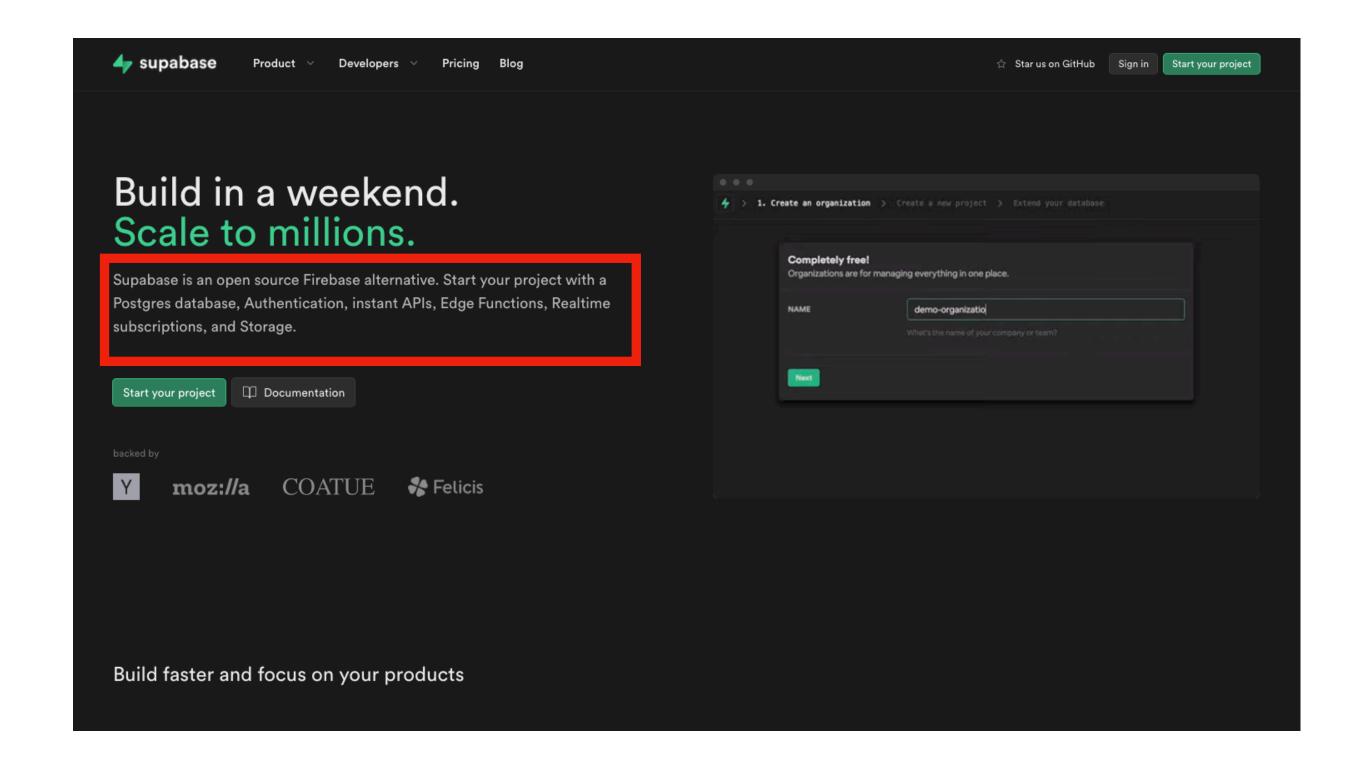
## 認知度調查

## Supabase知ってる人ど

#### Supabase2la

SupabaseはFirebaseに代わるオー プンソースのデータベースです。

Postgresデータベース、認証、インスタントAPI、Edge Functions、Realtime Subscriptions、Storageからプロジェクトを始めましょう。



#### Supabaseを使う利点

- Firebaseと違い、DBがPostgresなところ
  - FirebaseはNoSQL
- BaaSなので、バックエンドわからないフロントエンドエンジニアだけでもア プリケーション開発できる
- 管理画面のUIがよくDeveloper First!!
  - 英語しかないけど、それでもわかりやすい

### 今日の内容

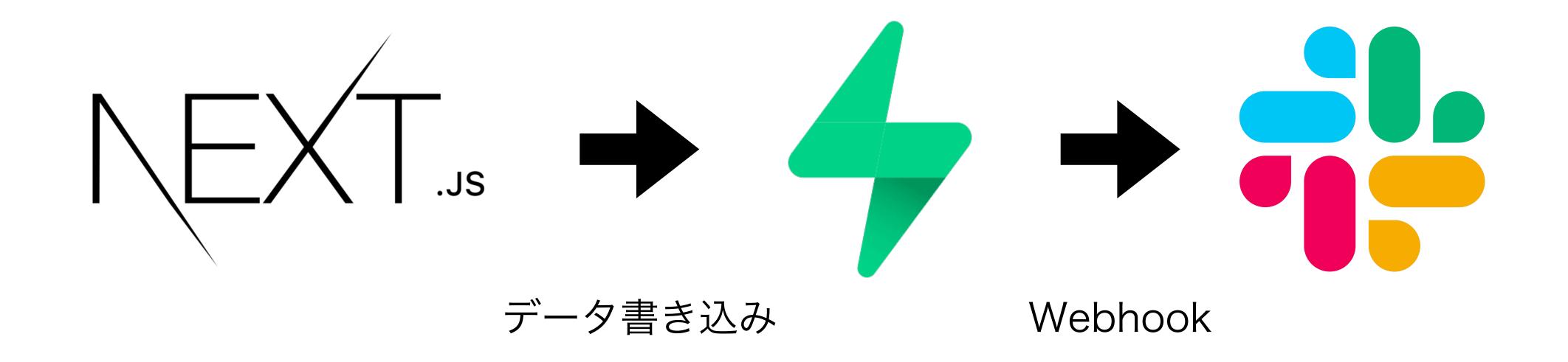
Database Webhookを試してみた話

#### 何ができるか

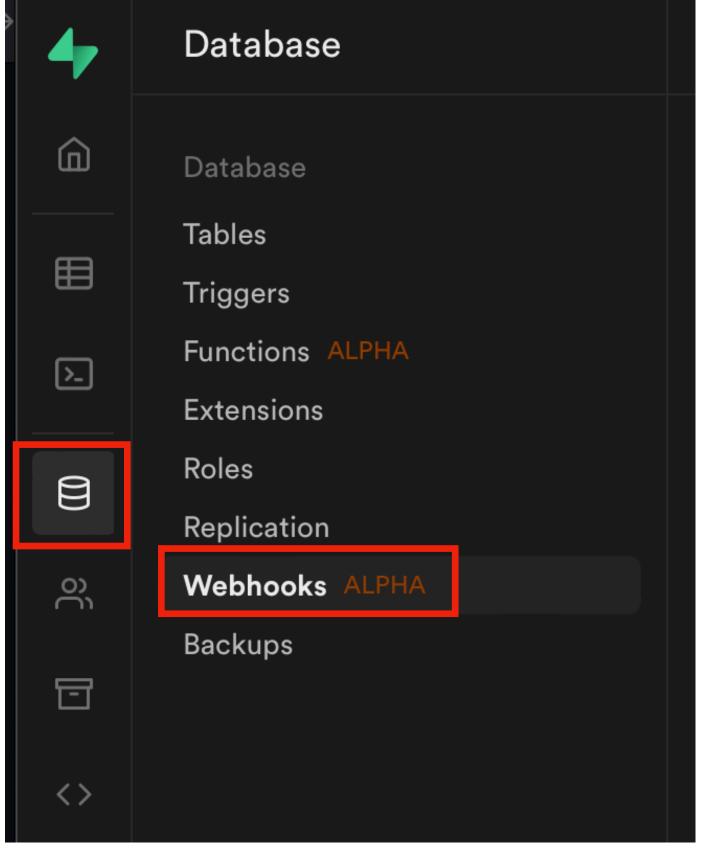
- DBにテーブルイベントが発生するたびに、他のシステムにリアルタイムでデータを送信することができる。
- ・イベントはInsert, Update, Deleteをキャッチすることができる。

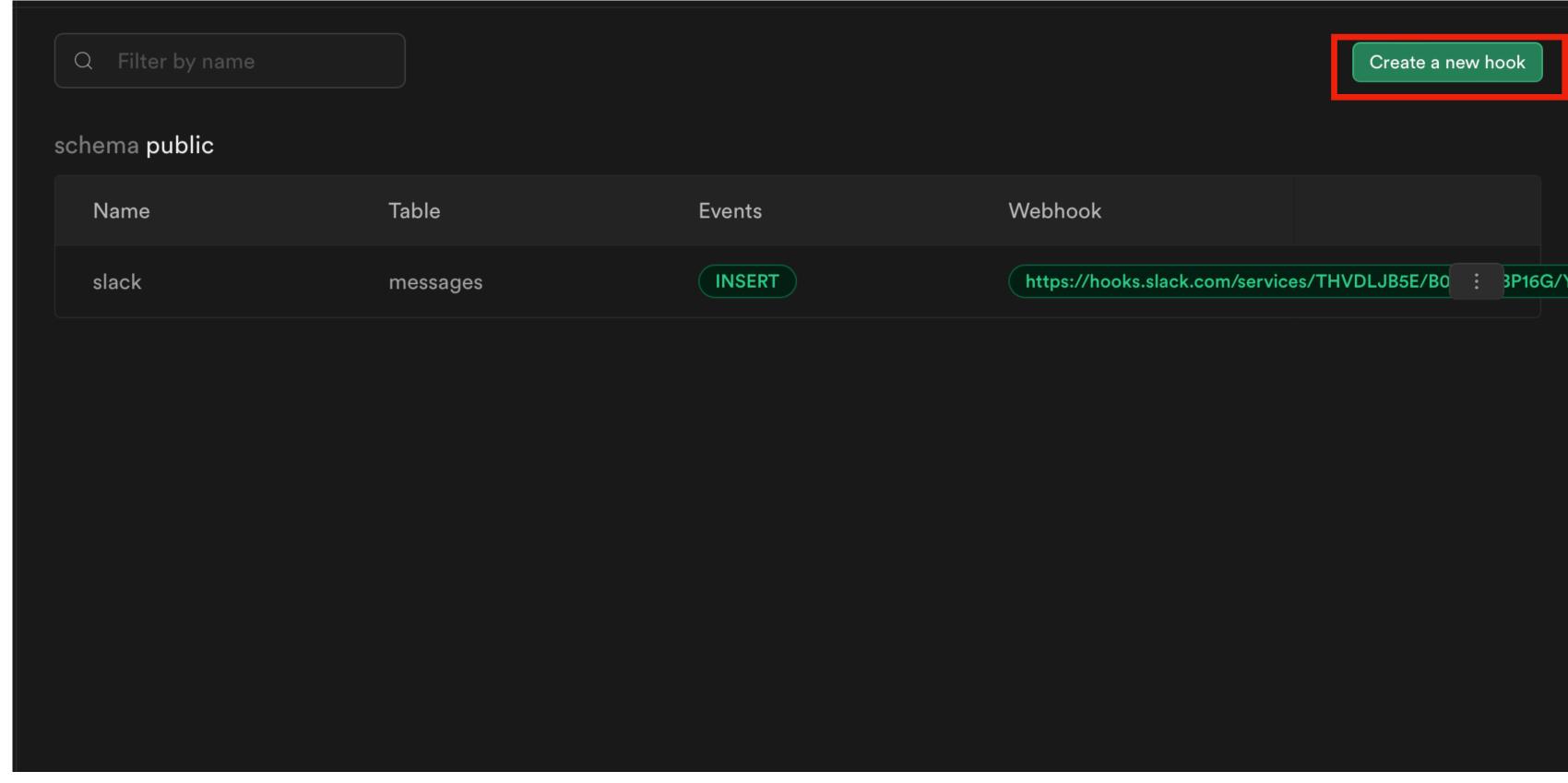
#### やってみる

Slackを模倣したアプリケーションでメッセージが追加されるたびに、Slackへ 通知するという本末転倒なことをします。



Databaseのアイコンから、Webhooks(ALPHA)を選んで、「Create a new hook」をクリック

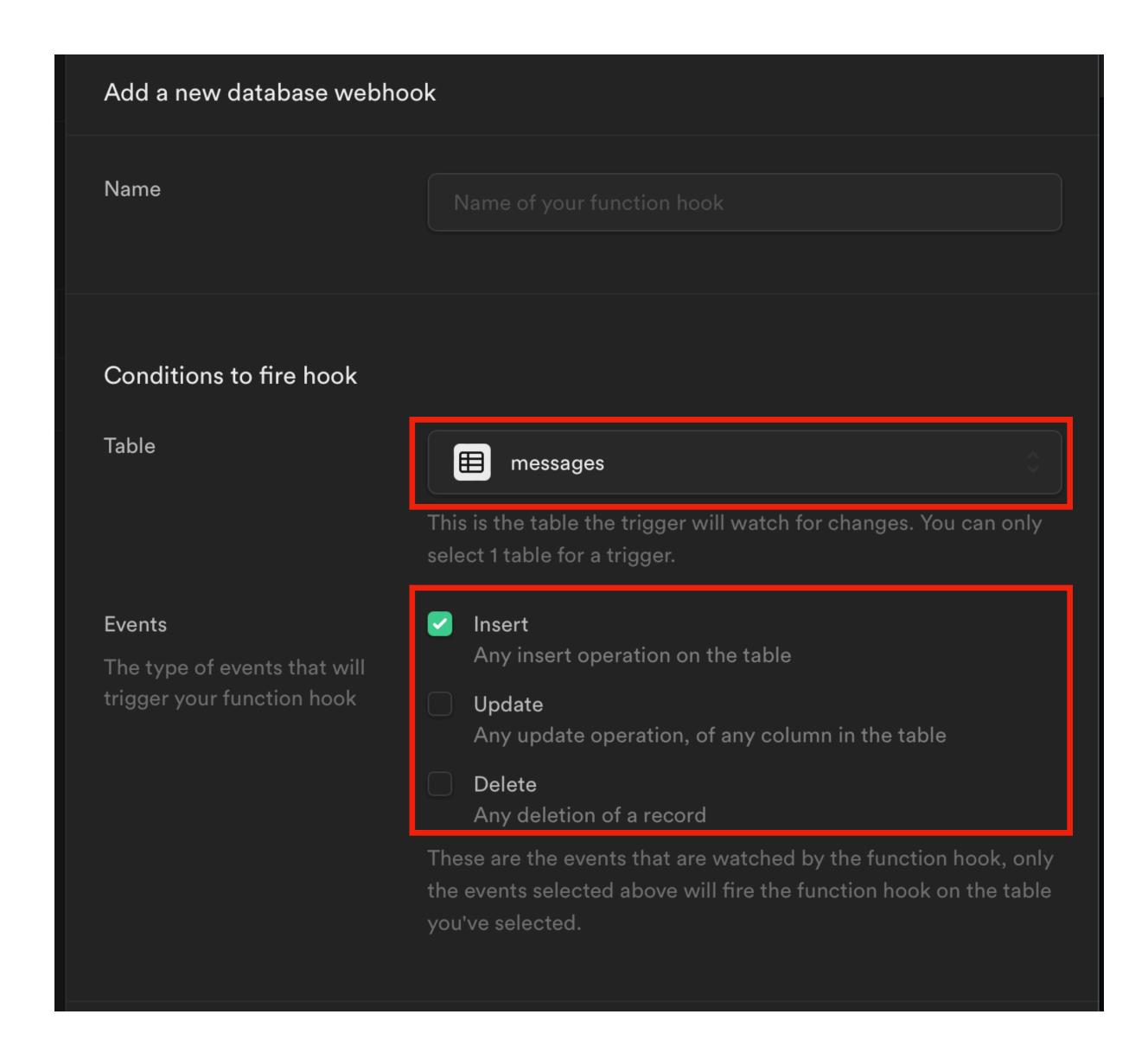




名前はテキトウにつけて、どのテーブル を監視するか選ぶ

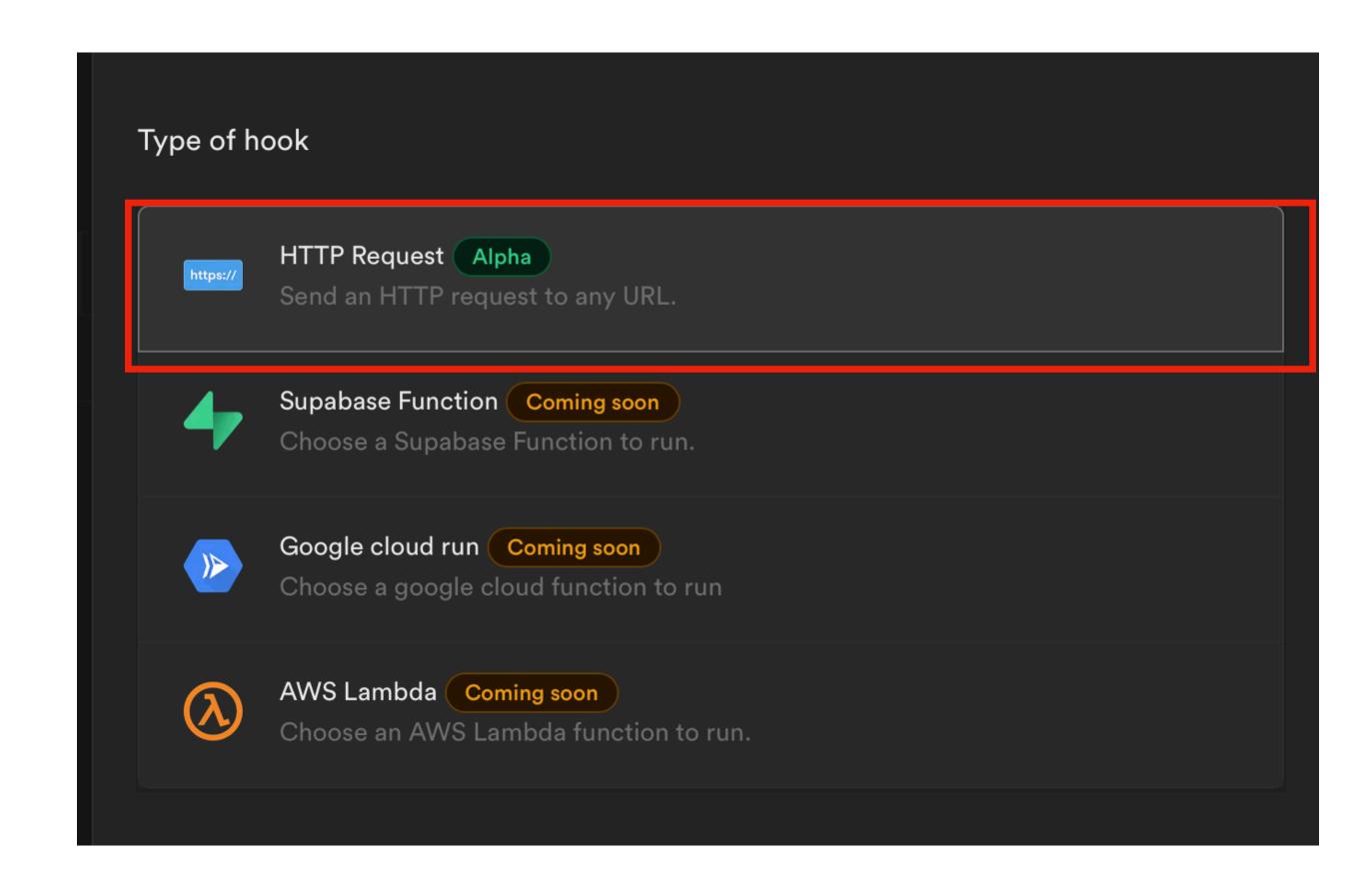
(今回はmessagesテーブルを指定)

追加・更新・削除のどのイベントに 発火させるか選ぶ



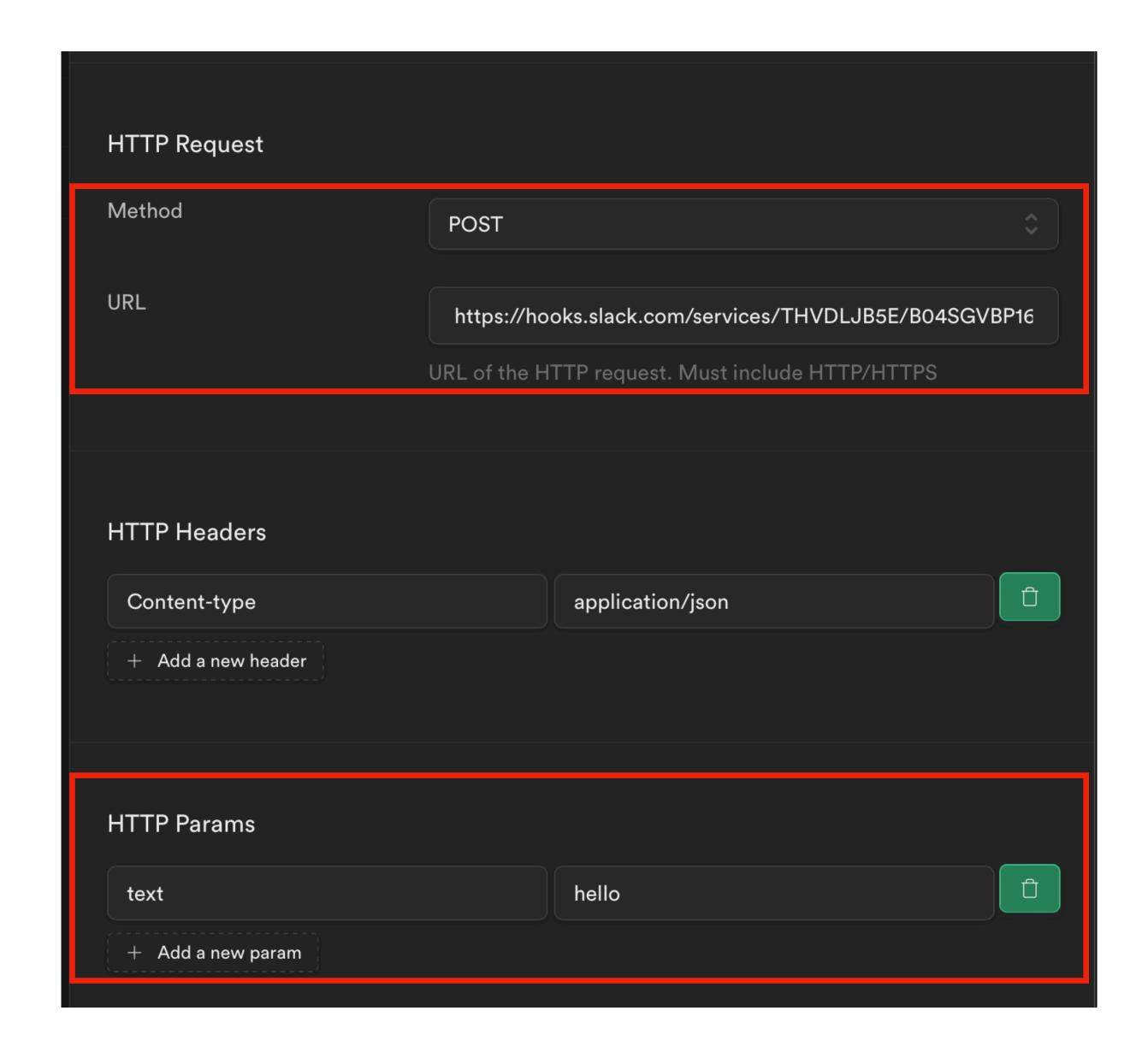
- HTTP Request
- Supabase Function
- Google clound run
- ASW Lambda

とあるけど、現状はHTTP Request のみ



MethodはPOSTでURLにSlackの Webhook URLを入力

ひとまずParamsにはtext: helloを入力 してみる



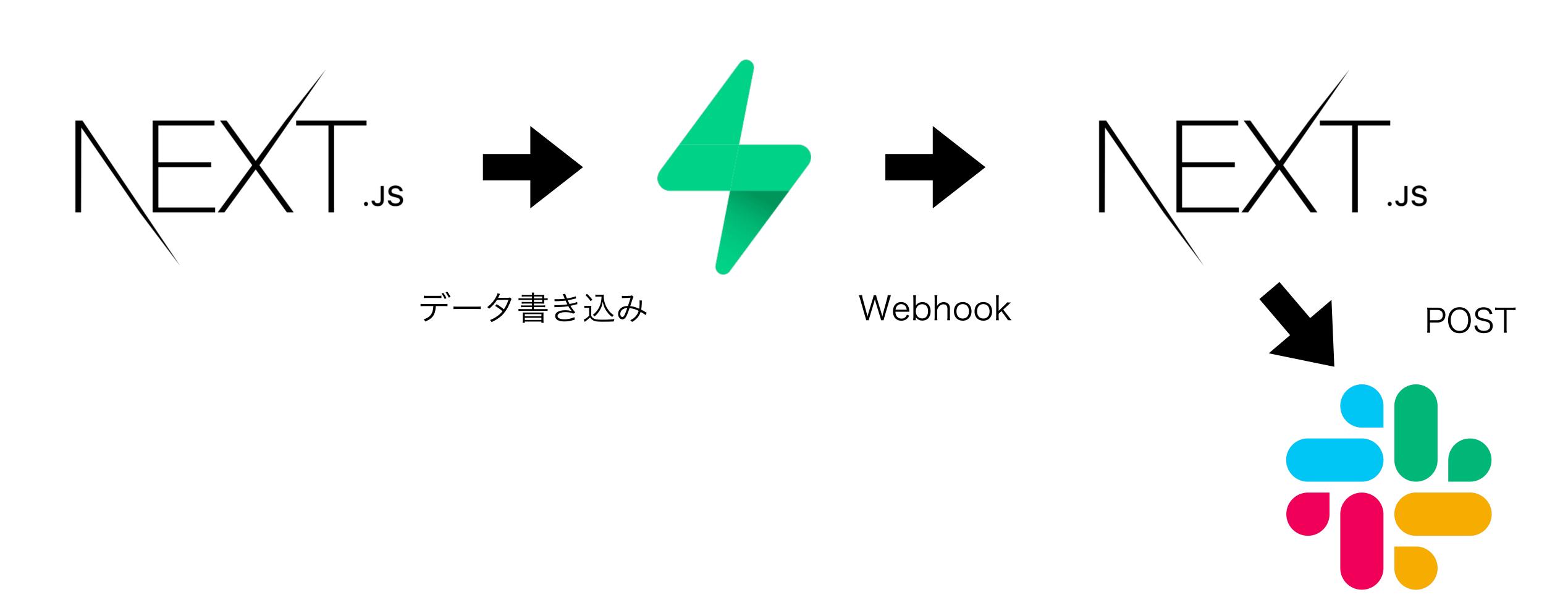
# 

### 実際にどういったデータが リクエストされているのか調べてみる

Next.jsのapiルートを作って、そこにデータを投げて確認してみます。

```
type: 'INSERT',
table: 'messages',
record: {
 id: 4,
 message: '作戦会議',
 user_id: '599d8536-1bae-4505-a14c-38891ac96382',
 channel_id: 1,
 inserted_at: '2023-03-11T14:05:39.782369+00:00'
},
schema: 'public',
old record: null
```

### 実際にどういったデータが リクエストされているのか調べてみる



# 

#### まとめ

- ・まだAlpha版なので期待せず
- ・bodyにデータ送れる様になったら使えそう
  - ・もちろん、keyの指定ができること前提